

令和 8 年度 学校経営環境分析書

白岳中学校区 校番 3 学校名 白岳中学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) ○公共施設や工場・商店街等が多く、生活科・社会科や総合的な学習の時間等における実地見学に適している。 ○総合体育館、広公園と隣接しているので、クラブ活動等に活用できる。 ○小中の連携体制が整っている。 ○校区内に警察と交番があり、治安の良さがある。また、連携を図りやすい。 ○校区内に高等学校があり、連携が図りやすく、訪問学習や出前授業が可能である。	S (強み) ○教育活動に前向きに取り組む教職員が多い。組織力が高い。 ○校区が1小学校1中学校であるため連携がとりやすく、小中一貫教育の効果が期待できる。 ○中学校区に食育を推進する栄養教諭が配置されているため、食に関する指導ができています。 ○外国籍生徒が多く、生徒同士が互いに認め合いながら、交流する機会を多くもてる。 ○防災教育に全クラスが取り組み、マイ・タイムラインの活用を図っている。また、小中で連携した取り組みを進めている。 ○学年のまとまりがあり、学年相互の連携がとりやすい。 ○JC ルームを設置し、教室に入りにくい生徒や不登校傾向の生徒の居場所づくりを進めている。	内部環境	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ○中学校区で、学力の向上対策を進める。 ○小中一貫教育の、さらなる推進を図る。 ○地域の企業や高等学校と連携し、人材の活用による「キャリア教育」「総合的な学習の時間」の充実を図る。 ○体育科、食育、健康教育の継続的な推進を図る。 ○資料のペーパーレス化など、ICTを活用した授業改善や働き方改革を進める。 ○小中一貫した生徒指導体制の充実を図る。(系統的な生徒指導規程の運用等)
	T (阻害的要因) ○校区内には、自然が少なく、理科や総合的な学習の時間等における自然を生かした体験的な活動が制限される。 ○生徒の転出入や外国籍生徒が多く、広(白岳)を郷土としてとらえにくい傾向がある。 ○学校周辺の道路は狭く、また、JR 広駅、国道などがあり、交通量が多く、登下校での安全安心面での阻害要因になっている。 ○商店街や飲食店、大型商業施設、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ゲームセンター等校区に商業施設が多数あり、生徒指導上の課題もある。 ○生徒数の減少に伴い、教職員数も減少している。	W (弱み) ○学力調査の結果から、学力が全体的に二極化しており、基礎学力が定着しにくい生徒が見られる。 ○運動部等で体力を向上し、運動が得意な生徒と運動が苦手な生徒との間で、体力の二極化がある。 ○教室に入りにくい生徒、不登校傾向の生徒が、一定数いる。 ○メディアと接する時間が長い生徒が多い。 ○学年のまとまりは強いが、学年相互の連携がとりにくい実態がある。 ○運動場、体育館など、部活動等での使用が、制限される。 ○施設・設備の老朽化が、激しい。 ○家庭学習が十分に定着しておらず、基礎学力が定着しにくい生徒が見られる。		○学力の向上と生徒指導の充実を図るために、教職員が同じスタンスで繰り返し指導していく。 ○「家庭学習の定着」「学び方」による自立的学習者の育成を行う。 ○主体的で深い学びを創造するために、ペア・グループ活動等を効果的に取り入れ、生徒の表現する力を向上させる。 ○学級活動等とおして、学習の基盤となる学級づくりを積極的に推進する。 ○配慮を要する生徒(特支・学びに困難を抱える生徒・不登校)の発達を支える、支援する生徒指導を推進する。(JC ルームの活用) ○地域、保護者への情報発信を積極的に行い、地域、保護者の理解と協力を得る。 ○部活動や生徒会活動等、組織の見直しを図る。

2 重点課題

阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は

- ① 主体的で深い学びの推進(授業改善・基礎学力の定着・家庭学習時間の定着・ICTの活用)(小中一貫教育のさらなる推進)
- ② 個を大切にした支援の充実(生徒一人一人の居場所づくり)
- ③ 小中間の交流・異年齢交流・学校行事・生徒会行事・学級活動・部活動を中心とした、互いのよさを認め合える集団づくりの推進
- ④ キャリア教育の推進(中高連携・企業連携・学校運営協議会の効果的な活用)
- ⑤ 健康教育・食育の推進(基本的生活習慣の確立・体力向上の取組)
- ⑥ 危機管理体制の構築(不祥事防止)
- ⑦ 「自分の命は自分で守る」力を育成する防災教育の深化